

単独槽の“合併化”加速へ 補助対象を拡充 環境省



The Knights

環境省は、単独処理浄化槽の合併処理浄化槽への転換を加速させます。今年度の補正予算案が成立したことを受け、合併処理浄化槽へ転換のための補助対象を市町村設置型だけでなく個人設置型にも拡充します。

その背景として、し尿だけを処理する単独浄化槽は、生活排水を未処理のまま公共用水域に放流するため、水質保全上問題があるとされています。そこで政府は 2001 年 4 月より単独浄化槽の新設を禁止しましたが、単独処理浄化槽は未だに多く利用されており環境省の調査によると、2006 年度末時点の設置数は 597 万基で、同時点の合併処理浄化槽 266 万基の 2 倍以上の数に上ります。

約 600 万基という膨大な単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換により、浄化槽メーカーにとって 20~30 年分の需要が発生すると見込まれています。今年度の補正予算では手始めに、希望する都道府県に委託して単独処理浄化槽の設置、使用状況を個別訪問調査により把握をし、その上で問題のある浄化槽については水質検査等を実施、早期の改善策や合併処理浄化槽への転換策を示すとしています。

ただし、課題も多くあり、下水道との供用区域における下水道への接続義務と合併処理浄化槽の設置とで利用者にとって 2 重の負担になりかねない点や、維持管理における負担が大きくなることなども課題としてあげられています。

当社では、BODやpH等、浄化槽排水の分析においても長年の実績と経験があります。ご不明な点がありましたらお気軽にお問い合わせください。

資料 2009 年 6 月 17 日付 環境新聞

水質分析箇所 江上泰邦